

2020

衣料品ロス削減を目的とした 消費者教育に関する研究報告書

令和2年度とくしま政策研究センター委託調査研究

令和3年3月

目次

I 概要	3
調査研究の要約	3
調査研究の目的・期待される効果	3
調査研究の実施内容	4
調査研究概念図	5
調査研究推進体制	6
モニター家庭調査手順	7
1. ヒアリング	7
2. フィールド調査	7
3. 衣料一覧の確認	7
4. 衣料の購入と管理に関する情報提供(付録2)	7
フォローアップ調査	8
1. フィールド調査:クローゼットの確認	8
2. ヒアリング:衣料購入行動の変容を行動変容ステージモデルにしたがって評価	8
II ケーススタディ調査結果	9
実態把握	9
購入行動の特徴—インタビュー調査から	9
保管場所の特徴	11
保有衣料の内容	13
廃棄した衣料	14
衣料品ロス削減の意識	15

学習および習慣の改善.....	16
収納方法の改善(実地指導)	16
衣料の管理や環境問題の学習.....	20
定着	21
フォローアップ調査の結果.....	21
III 衣料品ロス削減に向けて.....	27
衣料品を有効活用する管理	27
手持ちの衣料品の把握.....	27
活用しやすい収納方法を学ぶこと	28
定期的に「捨てる」判断と向き合うこと.....	28
責任ある消費の実践.....	29
持続可能性に対する情報を得ること.....	29
衣料の選び方を学習する重要性	30
今後の調査に向けた課題	32
参考資料.....	33
インタビュー用フェイスシート、同意書.....	34
ヒアリング調査ガイド.....	37
付録2: 調査後の情報提供内容.....	39
年間予算シート(家計全体)	40
年間予算シート(衣料品)	41
保有衣類一覧: モニターA	42
保有衣類一覧: モニターB	45
保有衣類一覧: モニターC	47

I 概要

本事業はとくしま政策研究センターによる令和2年度委託調査研究における消費者教育推進のための実証的共同研究として実施したものである。公募による審査を経て鳴門教育大学の事業が採択され、徳島県より委託を受けて事業を実施した。

調査研究の要約

衣料品ロス削減を目的とした消費者教育に求められる内容や効果的な教材を検討する。県内に在住する女性を対象とし、衣料品ロスの実態把握、購入や活用に関するケーススタディを実施する。ケーススタディを通じて、衣料品ロス削減のための効果的な講座内容や教材作成に資する知見を得る。

調査研究の目的・期待される効果

目的: 家庭における衣料品ロスの実態を把握するとともに、衣料の収納方法や購入計画に関する個別指導を行うことで、衣料品ロス削減を目的とした効果的な教育プログラムや教材の開発に向けた検討材料を得ることが本研究の目的である。

期待される効果: 衣料品ロス削減のための家庭での効果的な取組を明らかにし、持続可能な消費を实践する具体的な方法を提示することにより、個々人の消費活動における環境負荷の低減につなげてゆく効果が期待できる。

調査研究の実施内容

①調査研究の着眼点・手法などの特徴

家庭における衣料品ロス削減に着目し、持続可能な消費の重要性を説くだけでなく、具体的な取組方法を明らかにしようとするのが着眼点の特徴である。ケーススタディでは衣料品ロスの実態把握のみならず、整理収納の方法や衣料購入の個別指導を組み合わせたアクション・リサーチという手法を用いることが特徴である。

②調査研究の課題・背景

アパレル産業は石油産業に次ぐ地球環境負荷の高い産業と言われる。日本における衣料廃棄量は、年間約100万トン、約33億着であり、うち9割は埋め立てまたは焼却処分されるという。家計調査報告(総務省 2016)によれば徳島県民の1年間の被服および履物の購入額は、全国一位(27万7902円)である。衣料品ロス削減を入り口に、多くの人が持続可能な消費スタイルを獲得してゆくことは喫緊の課題といえる。

③課題の解決方法(取組方法)など

片付け・収納や衣料選びに関する有資格の専門家と共同で、県内に在住する女性を対象とした以下のケーススタディを、3ケース程度実施する。

【衣料品ロスの実態把握】保有している衣料の分類と計数を行い、記録する。

【個別指導】衣料の購入計画や収納方法に関する個別指導を行う。

【フォローアップ調査】現地観察およびインタビュー調査により、個別指導を実施した効果を検討する。

調査研究概念図

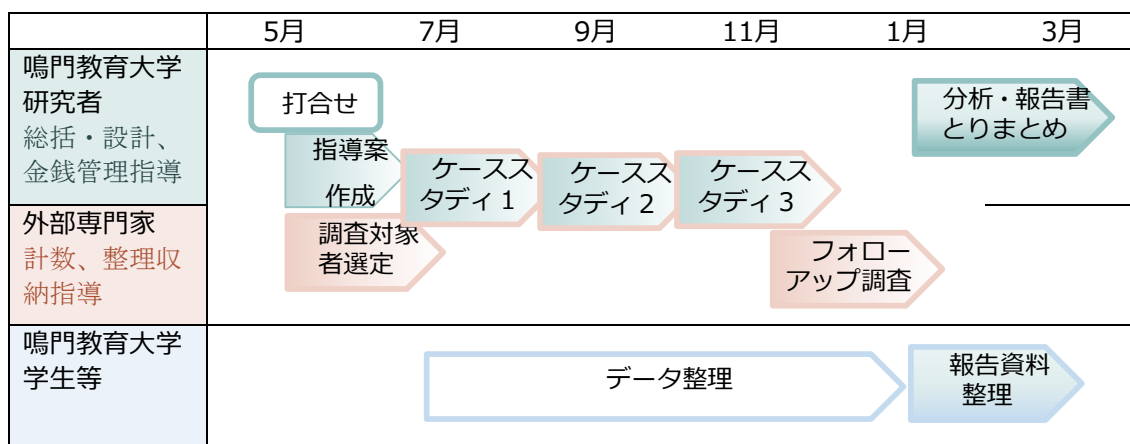
調査研究の内容は、以下概念図に示すとおりである。被検者がケーススタディの過程で、①実態認識、②学習、③習慣の改善、④定着という4段階を経て、衣料品ロスを削減できるようになることを目指す。各段階に合わせて、現地での実態調査と個別指導を行う。



図表 1-1 調査研究概念図

調査研究推進体制

調査研究推進体制は図表 1-2 のとおりである。



図表 1-2 調査研究推進体制概念図

メンバー

研究代表者	国立大学法人 鳴門教育大学大学院生活・健康系コース(家庭)	坂本 有芳
研究協力者	徳島お片付けラボ ライフオーガナイザー	今柴 知子
		竹内 真理
		藤原 百理

モニター家庭調査手順

1. ヒアリング

調査対象者の自宅を訪問し、最初に以下の内容についてのヒアリング調査を実施した。

- ・衣料の購入行動
- ・衣料の管理について

ヒアリング項目は付録1のとおりである。

2. フィールド調査

ヒアリング調査の後に、衣料の保管場所に移動し、フィールド調査を行った。

- ・保有衣料の傾向と収納場所の現状分析
- ・手持ち衣料の総量把握(「全出し」)
- ・衣料の分類および記録
- ・(必要に応じて)収納資材の調達
- ・ゾーニング、家具・収納用品の配置換え
- ・たたみ方の指導・収納

3. 衣料一覧の確認

撮影した衣料の全ての写真を Excel シートに貼り付け、アイテム、季節毎、「一軍」/「二軍」に分類したものを対象者にメールで送付した。

「一軍」/「二軍」の分類の誤りの確認と訂正を行った。

4. 衣料の購入と管理に関する情報提供(付録2)

フィールド調査を実施した後日に、メールにて以下の情報を提供した。

- ・ファストファッションの陰を扱ったドキュメンタリー映画 予告編の URL
- ・季節ごとの予算/購入計画書の Excel シート(付録3)
- ・軸となる衣料の選択について書かれた記事の URL

フォローアップ調査

1. フィールド調査:クローゼットの確認

- ・衣替えの季節を経た維持状態
- ・「2軍」の衣料の保管場所、使用状況
- ・「1軍」の服の活用状況
- ・新たに購入した衣料の購入理由、検討点など
- ・その後のクローゼットの使いやすさ、維持の問題点
- ・問題点の箇所に対して、収納方法を微調整
- ・必要に応じて、「全出し」→仕分け→再収納の実施

2. ヒアリング:衣料購入行動の変容を行動変容ステージモデルにしたがって評価

(意識高揚／現状認識／具体的知識)

- ・ファストファッションの陰を扱ったドキュメンタリー映画についての概要確認、内容についての感想
- ・季節ごとの予算／購入計画書の活用可能性
- ・衣料を記録した写真一覧の使用状況
- ・適正と感じる衣料量(バリエーション／管理しやすさ)
- ・軸となる衣料の選択

Ⅱ ケーススタディ調査結果

「実態把握」、「学習」、「習慣の改善」の順にケーススタディから浮かび上がった内容をまとめる。

実態把握

ケーススタディ対象者は3名であり、プロフィールは図表 2-1 のとおりである。

図表 2-1 対象者プロフィール

	ケースA	ケースB	ケースC
就業 状況	30歳代女性:フルタイム雇用	30歳代女性:フルタイム雇用 (家族従業者)	60歳代女性:定年退職
同居 家族	フルタイム雇用の夫と、未就 学男児2人(5歳、2歳)との4 人暮らし。	フルタイム雇用の夫3歳女児1 人との3人暮らし。	60歳代夫婦、娘(41歳)、孫 (17歳)との4人暮らし
住まい	持ち家・2階一戸建て	借家・一戸建てメゾネットタイプ	持ち家・平屋一戸建て
日常服 の種類	事務の仕事用の衣料、休日 用の衣料の2種類がある。	仕事用と普段用の衣料は、明 確に分けてはいない。	普段用の衣料、畑仕事用の 衣料。

購入行動の特徴—インタビュー調査から

習慣的に新しい衣料を買う傾向がある人が多いことがうかがえた。新しい衣料を買わせようというメディアやショップスタッフの影響も無視できない。本当に必要かどうかというよりは、「いつも同じ服装ではおしゃれではない」という思いから、新しい衣料を購入しているようであった。インタビューでは以下のような発言があった。

- ファッションブログを見ていて「これがおススメ」と紹介されているのがきかっけとなり、新しい服を買うことが多い。新しい服を着たくなる。
- (服のお下がりを持って来る娘が)月に2回、決まったセレクトショップで数枚の洋服を買う。
- 買うタイミングとしては、季節の変わり目が多いかなあ。

衣料が安価であることも、新たな衣料を買いやすくしている一面があるようである。1年あたり、ひと月当たりの衣料費の予算や、年間に購入する枚数の上限などは特段意識されていなかった。それほど単価の高くない衣料なので、月に数枚買っても家計には問題ない様子であった。

- 洋服を買う予算は決めていない。あまり高い服は買わない。使う金額はレンタルに月 8,000 円、購入がプラス α でひと月に 10,000 円程度だと思ふ。
- 予算は全然決めていない・・・考えたら恐ろしいが、いつも行く店はプチプラなので、月に 1 万円くらいなのではないかと思ふ。
- 季節の変わり目に通販で買う。予算は決めていないが、一度に 2 万円くらいが年に 3 回程度ではないか。
- 値札がついたまま一度も袖を通してない衣料が保管されていたケースがあった。セール品で値下げした札がついていたり、リサイクルショップの値札だったり、低価格で買ったことが分かる。値札がついたまま、捨てる判定になった衣料もあった。

自身の装いに定番や軸がないと、購入する衣料のバリエーションを増やすことにつながるのかも知れない。衣料の定番や装いの方針などに対する質問には以下の回答が得られた。


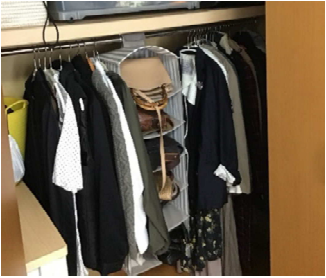

- 「これが自分の定番」というのは？に対して、「えー、あるんかいな」という答え。どんな服を着たいかといえは、ある程度きちんとして清潔な感じであればよい。シンプルな服装がよい。流行はそれほど気にしない。
- ファッション雑誌などは読まず、「こういうファッションにしたい」などの方向性は特にない。おしゃれはしたいとは思うけど、どうすればよいか分からない。
- 白のトップスに紺のボトムス／ジーパン／綿パンが定番の装いで、当日も同様の装いであった。着心地の良さを重視し、洗濯のしやすさも重要。お下がり回して来る娘は、特に定番はなく色々な服を着る。
- 自分で服を選ぶことが難しいので、選んでもらえるレンタルサービスは助かる。最初、別のサービスで4着選ぶように言われたが、大量の服の中から4着選び出すというのはとても決められなかった。
- 定番のお洋服は？と聞くと、少し迷った感じで、当日、着ている服とは全く違う洋服が回答された。

保管場所の特徴

衣料の保管場所を現地で確認したところ、3 ケースとも「引き出し式のダンスまたは衣装ケース」と「ハンガーパイプ」であった。ハンガーパイプのボリュームはケースによって異なり、ハンガーが主のケースが 2 ケース、引き出しが主のケースが 1 ケースである。

- 1階の一番奥の部屋に、家族の分も全て収められたウォークインクローゼットのスペースがある。ハンガーパイプとその右側にオープン棚、向かいにダンス、入り口付近にプラスチックの衣装ケースが置かれる。仕切りになる布ケースにきっちりと衣料が収められ、防虫剤も入れられているなど管理されている。ダンスの引き出しにはテプラで作ったラベルも貼られている。(ケースA)
- 寝室に造り付けのハンガーパイプ式クローゼットがあり、その中と外とにプラスチック製のダンスが1 つずつ置かれる。季節外の冬物は、別の部屋のプラケースに保管。ベッド下にも引き出しがあった。(ケースB)
- 寝室の隣に細長いウォークインクローゼットがあり、上段にはハンガーにかかった衣料が詰まり、下段はプラスチックの衣装ケース。全ての衣料が一か所に収まり、ニット類も含めて基本的にハンガーへの吊り下げ収納となっている。衣装ケースの上にもワイヤーかごが乗り、その中にストールや毛布などが入る。枕棚の上には季節外の布団、アルバム、和服などが詰められており、スペース一杯に、きっちり物がしまわれている。ベッド下にも引き出しがあった。(ケースC)




図表 2-2 収納場所の特徴

 <p>ケースA</p> <p>仕切りになる布ケースに、きっちりと衣料が収められていて、防虫剤も入れられているなど管理されている。ダンスの引き出しにはテプラで作ったラベルも貼られている。</p>	 <p>ケースB</p> <p>ハンガーパイプのあるクローゼットの中に、垂直に引き出し式の衣装ケースが入れられている。クローゼットの外にも同一のケースが置かれていた。</p>	 <p>ケースC</p> <p>細長いウォークインクローゼットの上段にはハンガーにかかった衣料がびっしりと詰まっていた。全ての衣料が一か所に収まり、ニット類も含めハンガーに吊り下げる収納となっていた。</p>
--	--	---

いずれのケースもハンガーパイプや収納ケースなど、十分なスペースはあるにも関わらず、収納場所の使いやすさには問題を感じていた。よく使う衣料を取り出しやすい使いやすい場所に置いていないことが、一つの大きな原因であることがうかがえた。

- 衣料を洗濯すると、畳んで1階に置いたところでストップしてしまったり、2階のベッド上に載せたところでトップしてしまったりして、結局は引出しにしまっていないことが多い。
- 衣料自体は1か所のスペースに集められている。ただし、あちらの引き出し、こちらの引き出し・・・と自分の衣料が入る場所は分散している。
- キャスター付きのプラ衣装ケースによく使っている衣料が入っているが、取り出すたびに動いて煩わしい。
- ハンガーパイプのある造り付けクローゼットの真ん中に、パイプに吊り下げる形の布製の収納用品があり、その中にバッグが収められていた。ただしバッグはしばらく使っていなかった様子であった。
- 1つのハンガーに、衣料を重ねて掛けているものもいくつかあるが、セットアップの衣料ではなく「ハンガーがないから重ねている」とのことだった。

図表 2-3 収納の問題点

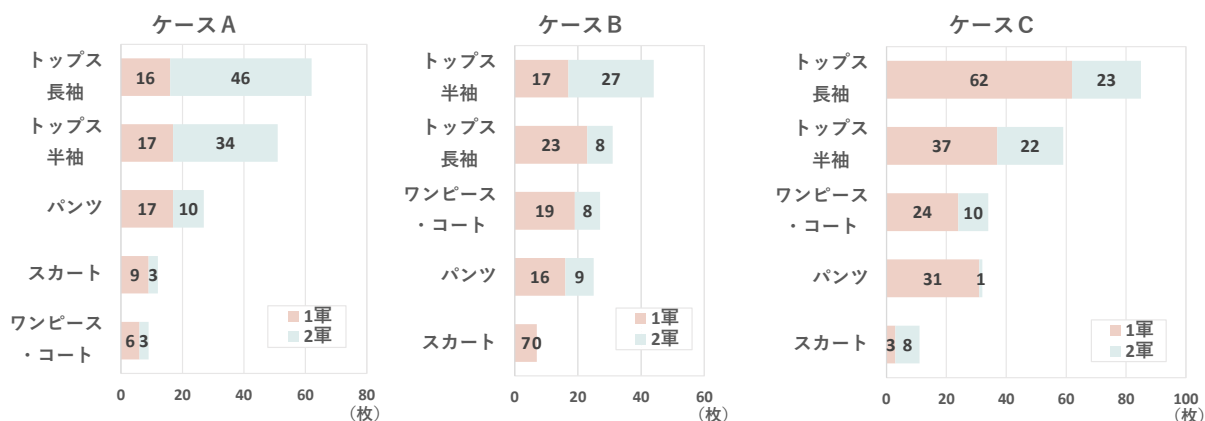
 <p>衣料自体は1か所のスペースに集められている。ただし、あちらの引き出し、こちらの引き出し・・・と自分の衣料が入る場所は分散していた。</p>	 <p>真ん中の一番使いやすい場所に、パイプに吊り下げる形の布製の収納用品があり、その中にバッグが収められていた。バッグはしばらく使っていなかった様子であった。</p> <p>低めの位置の枕棚も使いやすい場所であるが、プラスチックケースが置かれ、ほとんど使っていないバッグが入っていた。</p>	 <p>下段はプラスチックの衣装ケースで、その上にワイヤーかごが乗り、中にストールや毛布などが入る。</p> <p>ハンガーが足りないとの理由で、1つのハンガーに、衣料を重ねて掛けているものがいくつかあった。</p>
--	--	---

保有衣料の内容

どのケースも衣料を収納場所から取り出すと驚くほどの枚数が出てきた。似た衣料も多く、洗い替えや微妙な色違いなど、他人の目ではほとんど見分けのつかない衣料が複数あった。実地調査では、以下の内容が記録された。

- ボーダーのトップス、シンプルなセーター、ふわっとフリルがついたカットソーブラウスなど、同じような衣料が重なって出てきた。ブルージーンズも洗い替えや微妙な色違いなどで、似たものが何枚もあった。
- トップスは白が中心であり、深緑色のパンツやスカート、黒のパンツ、マスタード色のセーターやカットソーなど、似たようなものが何枚かあった。
- 夏用のトップスは、ほとんどが白～水色、ブルーの無地か、ほとんど無地に見えるもので似たものが多かった。合いものは、ボーダーのトップスが何枚かある。
- 冬物は夏と違い、黄色や赤などの色物もあり、柄やフリンジのついたカーディガン、ポンチョなど、バリエーションがあった。とはいえ、とにかく枚数が多いので、似たようなものも重なって持っている。ベッド下の引き出しから季節外のボトムスが出てきた。似たようなものを何枚も持っていた。
- 以前の活動で使った練習着、仕事で必要だったジャージ、イベント用のTシャツなどが使われずに保管されている。
- 「「1軍」「2軍」に仕分けしてみましよう」と言うと、「「2軍」？」と戸惑った様子であったが、あまり使わない衣料だと説明すると、納得して次々に分けていっていた。判断はほとんど一瞬であった。
- まずは今の季節の衣料を「1軍」と「2軍」に分けた。判断に時間をかけてはいないが、はっきりと「1軍」、「2軍」に分けられるという感じでもなかった。迷いながらもとりあえず分類しているという感じ。最近買ったものは迷わずに「1軍」に入ったようだった。

収納されていた衣料を活用度に応じて対象者本人の判断で「1軍」「2軍」に分類してもらい、アイテム毎に数えた結果は図表2-4のとおりである。いずれのケースもトップスの保有数が最も多い。ケースCは「1軍」に判定されたトップス長袖が62枚、トップス半袖が37枚、であり「1軍」のトップスが合計99枚に上った。

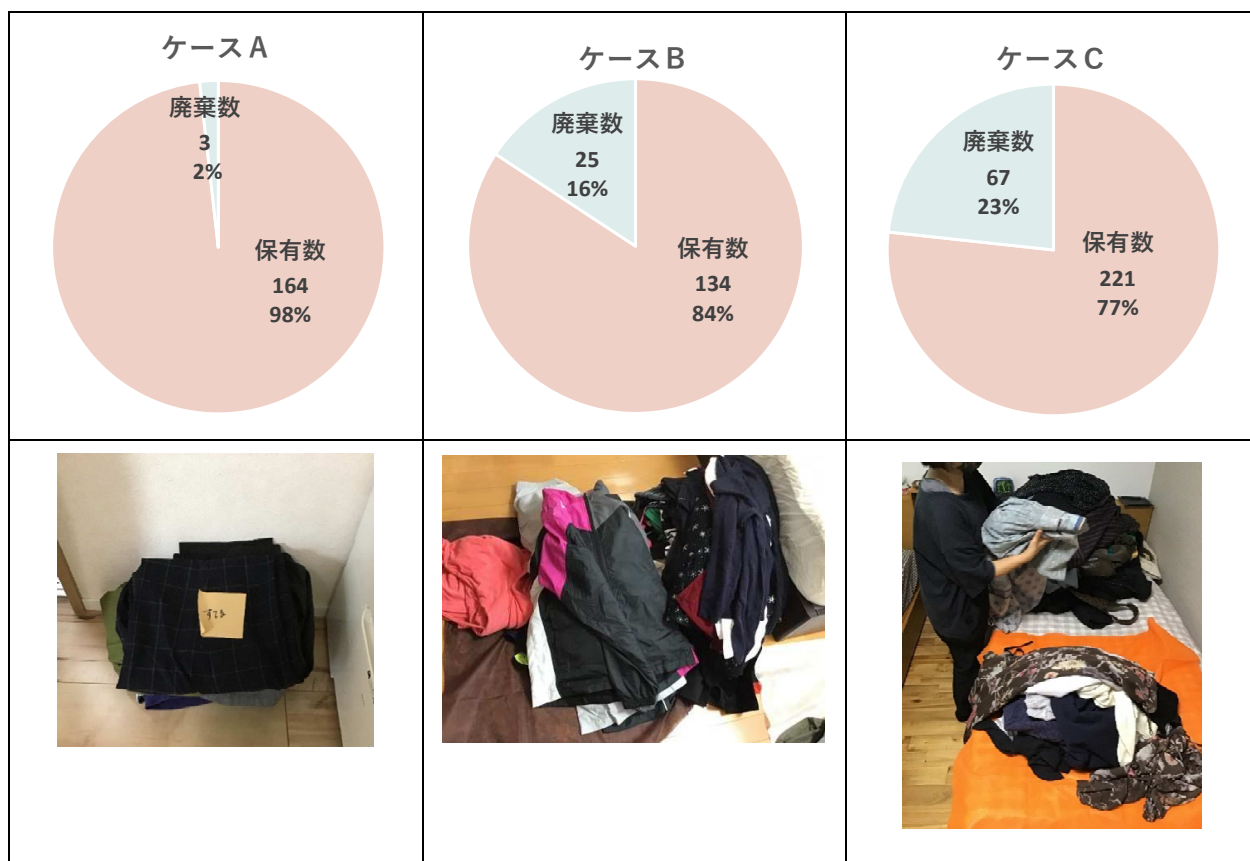


図表 2-4 全体のアイテム数と量、「1軍」・「2軍」の割合

廃棄した衣料

廃棄した衣料の数および写真は図表2-5のとおりである。ケースAは「2軍」に分類された衣料が多く、廃棄数はわずか3枚(全体の2%)であった。ケースBの廃棄数は25枚(16%)、ケースCは「1軍」と判定された衣料も多かったものの、廃棄数は67枚(23%)と最も多かった。廃棄について以下の意見があった。

- 時々(年に3回くらい)、古着屋さんに行きに行く。安い値しかつかないが、ただ捨てるよりも気分的によい。メルカリは面倒。洋服を捨てるタイミングは、毛玉になったりくたびれたりした服。衣替えのときなどに。子ども服も売りに行く。
- もうこれは着ないとなった服は、たんすの上に置いた入れ物にためておいて、溜まったらSecond Streetに売りに行く。洋服を捨てる、手放すタイミングの判断は難しい。
- 整理整頓が大好きな娘が、洋服を一度に2-3袋、どっさり捨てる。布のゴミの日があるので、分別してゴミとして出す。



図表 2-5 保有数と廃棄の割合

衣料品ロス削減の意識

衣料品ロス＝「買ってもあまり着ない衣料」を減らそうという意識は、いずれのケースも弱いという印象を受けた。環境や人権に配慮したエシカルファッションについて尋ねたインタビューでの反応は以下のとおりである。

- 「エシカルの視点で衣料選びを考えたことがあるか？」という質問に対して、すぐには意味が飲み込めない様子であった。補足説明すると、生産現場の人の労働条件の劣悪さなどは聞いたことがあるとのこと。
- エシカルファッションについては聞いたことがあるが、よくは知らず、それほど意識していない。
- エシカルファッションや衣料に関連する環境問題は、「全く知らない」とのことで、普段から環境問題をほとんど意識していない様子がうかがえた。
- 「廃棄した衣料の、その後の処理やリサイクルについて知っていますか？」という質問に対して、「全然、分かりません」と、考えたこともない様子であった。

学習および習慣の改善

学習のプロセスでは、1) 専門家による衣料の有効活用を図ることができる収納方法の実地指導、2) メールを通じた様々な知識提供を行った。それぞれの具体的内容は以下のとおりである。

収納方法の改善(実地指導)

実地指導によって収納方法がどのように改善されたのか、具体的な内容をケース毎に示す。

【ケースA】

- 「2軍」の衣料をファスナー式のケースに仕舞ったり、ビニール袋に入れたりして、ハンガーパイプの上の高いところに置くようにした。「1軍」を全て高いところに置くようにしたことで、ハンガーパイプはスカスカになり、2/3ほど空いた状態になった。
- 「1軍」のオンシーズンのトップスは、平畳みにしてオープン棚にしまうようにする。「1軍」の冬物は、下から3段目のタンスの引き出しにしまうようにする。ボトムスはタンスの一番下の引き出しに入れる。一番下は若干、取り出しにくい場所ではあるが、長らく定位置だとのことで位置を変えなかった。
- オープン棚に置いていた物は使用頻度が低い様子であったので、「引き出すたびに動いて煩わしい」というキャスター付きのプラ衣装ケースなどに移した。



図表 2-6 収納方法の改善【ケースA】

 <p>「2軍」の衣料をファスナー式のケースに仕舞ったり、ビニール袋に入れたりして、ハンガーパイプの上の高いところに置くようにした。</p>	 <p>「1軍」の冬物は、下から3段目のダンスの引き出しにしまうようにする。</p>
 <p>「2軍」を全て高いところに置くようにしたことで、ハンガーパイプはスカスカになり、2/3ほど空いた状態になった。</p>	 <p>「1軍」のオンシーズンのトップスは、平畳みにしてオープン棚にしまうようにする。</p>

【ケースB】

- 使いやすい場所と思われる低め枕棚の中心に、オンシーズンの夏物を平畳みにして置くことにした。ハンガーパイプ中央の吊り下げ収納はそのままの位置で残し、平畳みの衣料や丸めても大丈夫のようなボトムスなどを入れる場所とした。
- 平畳みを導入する前に、立ったまま畳む方法(ショップ畳み)を伝え、さらに重ねた衣料を崩さずに取り出すことができるかどうかを、本人に実践してもらって確認した。
- ベッド下の引き出しは余裕があったため、ここにバッグとストールを入れる。
- クローゼット内に、プラスチックの衣装タンスが垂直に入っているのが使いにくそうな印象なので、ここに彼女の「2軍」の衣料を入れることにした。もともと入っていた配偶者の方の衣料を、クローゼット外に置いてあるタンスに収めるよう交換した。
- 季節外の「1軍」「2軍」衣料(冬物靴下 タイツ等含む)は、深さのあるフタつきのプラケースに入れて、別の収納専用スペースで保管するようにした(プラケース1ケース半使用)。


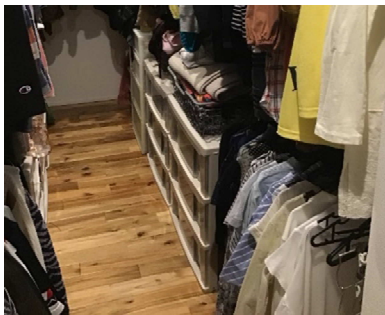

図表 2-7 収納方法の改善【ケースB】

 <p>オンシーズンの夏物は、枕棚の中心に平畳して置くことにした。平畳みを導入する前に、この方法が有効活用できそうかどうか(ショップ畳みや重なった衣料の取り出しかたを確認したところ、大丈夫そうであった。その他、日々使うものを枕棚に入れるように配置。</p>	 <p>吊り下げ収納部分も平畳みの衣料や、丸めても大丈夫なボトムスなどを入れる場所とした。</p>
---	---

【ケースC】

- オンシーズンのトップスを、一番手前のクローゼットの下段に戻し、奥に行くほど冬物になる・・という形でまたハンガーパイプに掛けて戻した。ハンガーの向きを合わせ、同じ分類の衣料のハンガーは統一するよう修正していった。ボトムスはとても綺麗に畳みなおし、プラスチックケースに戻した。
- 「2軍」のボトムスや衣料はベッド下の引き出しとプラスチックケースに入れることにした。ハンガーにかける必要のある「2軍」衣料は、ハンガーをショッキングピンクのものにして、「1軍」との違いが分かるようにして奥のパイプに吊り下げた。
- 「1軍」に判定された衣料が多く、ハンガーパイプに全て戻したので、作業前後ではクローゼットの見た目はほとんど変化がなかったが、全体的に 7-8 割収納にはなった。
- クローゼットの見た目は大幅な変化がなかったが、全部を出して見直したことで忘れていた衣料の存在も認識し、大量の衣料を捨てることになった。

図表 2-8 収納方法の改善【ケースC】

 <p>オンシーズンのトップスを、一番手前のクローゼットの下段に戻し、奥に行くほど冬物になる・・という形でハンガーパイプに戻していった。</p> <p>ハンガーの向きを合わせ、同じ分類の衣料のハンガーは統一するよう修正した。ボトムスはとても綺麗に畳みなおし、プラスチックケースに戻した。</p>	 <p>ハンガーにかける必要のある「2軍」衣料は、ハンガーをショッキングピンクのものにして、「1軍」との違いが分かるようにして奥のパイプに吊り下げた。</p> <p>「1軍」に判定された衣料が多く、ハンガーパイプに全て戻したので、作業前後ではクローゼットの見た目はほとんど変化がない。ご本人の衣料は、全体的に 7-8 割収納にはなった。</p>	 <p>クローゼットの見た目は大幅な変化がなかったが、全部を出して見直したことで、忘れていた衣料の存在も認識し、大量の衣料を捨てることになった。</p>
--	---	---

衣料の管理や環境問題の学習

衣料の管理や環境問題の学習を促すためにメールを通じて行った。様々な知識提供の具体的内容は以下のとおりである。

- 衣料を記録した写真一覧の使用状況
- ファストファッションの陰を扱ったドキュメンタリー映画についての概要確認、内容についての感想
<https://unitedpeople.jp/truecost/about>
- 適正と感じる衣料量(バリエーション／管理しやすさ)、軸となる衣料の選択
 - ワーママの時短コーデ「軸ボトムス」で毎日おしゃれ:
<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO43880290Y9A410C1000000/>
 - クローゼットをミニマルにしたら起こった、5つの素敵な変化:
<https://minna-no-kurashi.jp/article/detail/2924>
 - 衣料の買い過ぎ防止に効果がある「洋服ノート」の作り方:
<https://minimalist-fudeko.com/my-little-fashion-notebook/>
- 季節ごとの予算／購入計画書の活用可能性
 - 家計全体の予算
 - 衣料の予算

定着

衣料品ロスを削減し、衣料の長期にわたる活用が図られ、適量を購入しながらも満足度も向上するような変化がみられたかどうかをフォローアップ調査の結果より検討する。




フォローアップ調査の結果

現地観察およびインタビュー調査により、個別指導を実施した効果を検討した。まずは衣替えの季節を経た維持状態、「1軍」の衣料の活用状況、「2軍」の衣料の保管場所や使用状況、クローゼットの使いやすさや維持の問題点について現地で確認を行った。フィールド調査では、以下の点が明らかとなった。

【ケースA】

- 「1軍」衣料は、全体的にゆとりがある状態で、整然と畳んで収納する状態が保たれていた。7月時点ではオンシーズンの「1軍」を平置き棚に、オフシーズンの「1軍」をタンスの引き出しにと考えたが、季節が変わって衣料の場所の入れ替えを行わなくても、問題ない様子であった。
- 「2軍」として封印した衣料から、2枚ほど取り出してきたものがある。それ以外は、前回まとめた状態のまま保管している。
- 本当の「1軍」の衣料は、今年の(2020年)3月から利用しているレンタルサービスであり、最近はダブルで利用している。返却してから新しい衣料が届くまでの時間を待つことができないためダブルにしたとのこと。レンタルサービスは本当に重宝している。クリーニングも不要であり、サイズも本当にぴったりなものが届く。
- レンタルは衣料の質もそれなりによい感じで、すぐに毛玉などができるというわけではない。新品だけでなく使用したことが分かるものが届くが、まったく嫌な感じはしない。タグの印刷が薄くなるほど使用された衣料もきたこともあるが、きれいにクリーニングされているので問題ない。
- レンタルの衣料は平置き棚ではなく、布団を置いている場所の手前、腰高の位置にあるスノコの上に、ポンとむき出して置いている。確かに、とても使いやすい場所である。

図表 2-11 フォローアップ調査でのクローゼットの様子【ケースA】

 <p>ハンガーパイプは全体的にゆとりがある状態が保たれていた。ボトムスも吊り下げられていた。</p>	 <p>平置き棚は、7月末に整えた状態、トップスを細めにたたんで、2列にきれいに収めている状態が保たれていた。「衣替えをしていなくて、ここにあるのは夏物」とのことであった。</p>	 <p>冬物は引出しにしまっている物を取り出し、また引出しにしまうという形で使っている。取り出しやすい状態なので、季節が変わっても場所を入れ替える必要もなさそうであった。</p>
--	---	---

【ケースB】

- クローゼットは8月初頭にオーガナイズをした状態がほぼ保たれていた。「1軍」の衣料は、低めの枕棚や、クローゼットに吊り下げた布製BOXに、きれいに平畳みされて収められていた。
- 「1軍」の収納場所に収められている衣料は冬服になっているので、衣替えを経ても置き方が保たれていることが分かった。
- 「2軍」として仕分けし、タンスにしまった衣料を取り出して使ったのは、ほとんどない。これは妊婦になって、ふだんの衣料が着られなくなってきたというのも一因とのことであった。

図表 2-12 フォローアップ調査でのクローゼットの様子【ケース B】



8 月初頭にオーガナイズをした状態がほぼ保たれ、低めの枕棚や、クローゼットに吊り下げた布製 BOX に衣料がきれいに平畳みされて収められている。

【ケースC】

- 8 月にオーガナイズをした状態が保たれていた。8 月時点でも、前後で大きな変化はなかったが、全体に量が減ったり使用頻度の高いものを手前に持ってきたりしたため、使いやすくなったとのことであった。
- ボトムス類も 8 月にオーガナイズした状態と同じように、ひと目で見やすい状態に畳まれて、プラスチックケースに収められていた。
- オーガナイズを行った翌日には、夫の衣料も同じように全部出して、必要かどうかを見直して、しまい直すという作業を行ったとのことであった。
- ウォークインクローゼットのスペースをよくよく見ると、クローゼット入り口の正面にオープン棚があることを発見。このケースでは 8 月の時点では平畳みのスペースを作れずにいたが、この場所の存在を見落としていたためだった。
- オープン棚にお揃いの黒の収納 BOX が収められているが、その前に装飾品が置かれていることからしても、この場所には使っていないものが置かれていることが分かる。聞いてみると、やはり普段は使わないものが入っているとのことであった。

- オープン棚のものを一度すべて取り出し、一番使いやすい高さを 2 段程度、ニット類などの平置き場所に変更しようとした。ただし、フォローアップ調査当日に作業をすることは見合わせ、後日、ご自身で実施するとのことであった。

図表 2-13 フォローアップ調査でのクローゼットの様子【ケースC】

 <p>オーガナイズした状態が保たれていた。8 月時点でも、前後で大きな変化はなかったが使いやすいようになったとのことであった。</p>	 <p>ボトムス類も 8 月にオーガナイズした状態と同じように、ひと目で見やすい状態に畳まれて、プラスチックケースに収められていた。</p>	 <p>クローゼット入り口の正面にオープン棚があり、使っていないものが置かれているとのこと。一番使いやすい高さの 2 段程度を、ニット類などの平置き場所に変更することを提案。</p>
---	---	--

インタビュー調査では、以下の点が明らかとなった。いずれのケースでも、新たな衣料の購入は十分に検討し、慎重になっていることがうかがえた。手持ちのものを生かせるような衣料を買おうという意識や、新しい衣料を買うということ自体を控えようという意識が強まったことがうかがえた。

【購入行動の変化】

- 前回のオーガナイズ後、服を買ったのは 3 枚である。新しい服を買うのはとても慎重になった。着ているときに評判もよく、着やすく今後も活用できそうだと判断したレンタルの服を買い取った。この 4 カ月で 3 枚というペースは、今までと比べて本当に減った。

- レンタルが本当に重宝していて、これでうまく回っている。かといって、今までの洋服が全部なくなるのも困る。本当の「1軍」はレンタルであり、前回「1軍」と分類した服はベンチスタートの選手といった感じである。
- 新しく買った衣料は、現在着ている紺のジャンパースカートのみ。妊婦になり、通常サイズの洋服が着られなくなってきたので新しい服を買おうという発想がない。ほぼ、このジャンパースカートでしのいでいる。
- 娘のお下がりはどんどん来るが、新しい衣料は今日着ているセーター以外は買っていないと思う。
- 新しく衣料を買う際に、これまでは買う服同士の組み合わせだけを考えていたが、クローゼットの整理をしてみても自分が持っている洋服が分かったので、今ある服との組み合わせを考えるようになった。
- 衣料を買おうという意欲も、以前よりなくなった。クローゼットの整理をしてよくわかったので、「もう(洋服はたくさん)あるし」と思う。
- 以前は、お店で洋服を見て、セールになっているなどお得な感じでよさそうな服があると、それだけで嬉しくなって買ってしまっていた。自分がいつどこに着ていくかなどあまり考えず、「この服が〇円なんて、お得！」という感じ。でも、今はそんな買い物は無駄になることが分かった。

【衣料品ロス問題に対する意識】

ファストファッションの陰を扱ったドキュメンタリー映画の予告編は、2 ケースの対象者がフォローアップ調査前に視聴していた。事前に視聴していなかった対象者には、フォローアップ調査の際に口頭で概要を説明した。いずれのケースも、衣料製造の裏にある人権問題についての理解を示し、今回の調査を機に環境意識が高まったことがうかがえた。インタビューでは以下のような発言がみられた。

- 衣料製造の裏にある人権問題について、多くの人が知ることが非常に大事である。
- このような情報を得る機会がなかなかないのが残念である。
- 上司に「無知は罪ぞ」と言われたことを思い出す。安価な衣料が日本で売られる背景に、途上国の人の大変な生活があるということを全く知らなかったが、これからはこういう点も意識して考えてゆかなければならない。
- 国による取り組みも始められている中で(環境省によるファッション業界の環境負荷を減らす取り組みの記事の提示があり)、消費者としてできることをしてゆくことが大事と思う。

季節ごとの予算／購入計画書は、いずれの対象者も活用しにくいという感じであった。細かくきっちりと計画を立てなければならない印象を与えてしまった点が、活用につながらなかったようである。衣料を記録した写真一覧の Excel ファイルを、そのまま活用しようという対象者もいなかった。

- 自分の収入に対する年間予算は Excel シートを活用して作成した。ただし、家族の衣料を季節ごとに予算や計画をここまで詳しく立てるのは無理であった。
- 家計の予算はざっくり立てているが、Excel を使って管理するのは面倒に思う。
- 今回、記録した写真一覧の Excel ファイルは使わないが、以前から購入した衣料の記録を行っている。
- 若いころは、経済的な制約が多く、自分の衣料など全く買えない時期を長く経験した。本当に大変な時も過ごした。その頃のことを忘れずに、慎重に買い物しないといけない。
- 最近ではレンタルした衣料をスマホで撮影し、レンタルサービスのサイトに登録すると、他の利用者の評価をもらうことができる。評判のよい衣料が分かり、これまでに自分がどのようなものを借りたかも確認ができ、重宝している。

保有する衣料の量を限定する、軸となる衣服の選択に関する内容には、1名の対象者が興味を持って学んでいた。他のことで忙しかったり、必要な衣料が定まっている対象者には、特段必要のない情報のようであった。衣料の管理について、インタビューでは以下のような発言がみられた。

- 「洋服ノートの作り方」や、「軸ボトムスを決める」という考え方は参考になった。
- 昔は 400 着あった服を 15 着に減らしたという、「ミニマルクローゼット」の記事には、「これは自分にはムリ」と思った。色々な洋服を着るのは、日々の生活の楽しみである。
- 衣料の購入、管理でもやもやしていたことを解消する一番のきっかけになったのは、やはりオーガナイズに来ていただいて、手持ちの衣料を「全出し」したことだと思う。それ以来、本当に気持ちもスッキリしている。

Ⅲ 衣料品ロス削減に向けて

今回の調査対象のケースは、3 ケースとも空間や持ち物の管理に対する意識が高かったため、調査から浮かび上がるデータを一般化することには難しい点もある。見出された問題は、衣料品ロスの問題の一部でしかない可能性もあるが、共通して提言できる点を挙げると以下のとおりとなる。

衣料を有効活用する管理

手持ちの衣料の把握

衣料品ロス削減に向けた消費者教育を進める上でまず認識を促したい内容は、自身がどのような衣料を持っているのかをしっかりと把握する大切さである。すでに十分な衣料があるにも関わらず新たなものが買い足され、活用しきる前に似たようなものが増えてゆく様子がケーススタディではうかがえた。先行調査でも、「最も収納に困っているもの」として回答されたトップの項目が「洋服」であり、6 割以上の方が衣料の収納に困っていることが示されている(黒川・金・坂本 2020)¹。何となく買い足されて置ける場所に収められた衣料は、十分に有効活用されることなく、中途半端に放っておかれてしまう。新たな衣料を買う前に、自身がどのような衣料を持っているかをよく確認し、少なくとも「同じようなものを持っていたのを忘れていた」という理由で新たな衣料を買い足さないことが、衣料品ロスを削減する第一歩である。手持ちの衣料を確認することは、自分自身に必要な衣料や望んでいる装いなどを、改めて考えるきっかけにもなるだろう。

【対策】

定期的に手持ちの衣料すべてを見直す大切さとその方法、手持ちの衣料を把握しやすい収納方法、などを学び、衣料品を管理する重要性とその具体的な方法を多くの消費者が理解することが重要である。また、管理の重要性を納得するためには、なぜロスを削減することが重要なのかという点への理解も重要となる。

活用しやすい収納方法を学ぶこと

今回のケースでは、それぞれに物や空間の管理に対する関心は高く、収納の方法にも各自の工夫がなされていた。にもかかわらず、実際の暮らしの中では何となく使いにくさを感じながら解決に至らずにいる状況では共通していた。それは衣料が点在して収納されて特定の箇所に集まっていなかったり、最も使いやすい場所に使用頻度の低いものがしまわれたり、また使いやすい場所に多くのものを詰め込んでしまうため、使いやすい状態にならないなどが原因であった。

毎日の暮らしの中で、ただはじめに決めた収納方法を愚直に守ろうとし、日常が忙しくなるとその方法を守り切れず出しっぱなしになり、罪悪感を持ったりストレスを抱えたりする・・・という状況に、多くの人が陥っていることが推察される。衣料に限らず収納全般に言えそうであるが、整理収納の方法はいつかどこかで仕入れた「こうすべき」という情報に何となくしたがって行われることが多く、本当にその方法が実際の自分の暮らしに合っているのかどうかを批判的に疑ってみるということは、なかなか難しいといえそうである。先入観に支配されていることの多い日常生活に関する様々なやり方を、客観的に見直す機会が必要である。

【対策】

衣料を有効に活用してゆく上では、現在の収納の問題点を客観視し、現在の方法以外にも様々な収納のやり方があることを学ぶことがとても重要である。収納方法は1つの正解があるわけではないこと、持ち物が変化するにつれて適した収納方法も変化することなども、消費者が学ぶ機会を設ける必要がありそうだ。ケーススタディでの収納方法改善プロセスの観察でうかがえたように、先入観から脱却することが使いやすい収納方法に変えるための一番のポイントであることを意識できるようにする必要がある。一度自分で取り入れた方法がうまくゆかない場合は、専門家によって客観的な視点から助言をもらうことも大いに有用であることも知らせたい。

定期的に「捨てる」判断と向き合うこと

いずれのケースでも衣料を手放すことの難しさを感じさせられた。この一因として、衣料は意識的にしなければ「捨てる」という判断に向き合わずに済ませられる点も影響しているように思われる。食料は永遠に食べられるわけではなく、劣化したり腐ったりするため、ある時点で「捨てる」という決断をせざるを得ないが、衣料に

は誰が見ても納得できるような捨てるタイミングはなかなか訪れない。大きな穴が開いたり擦り切れたりするなど、よほどのダメージを受けた衣料以外は、保有している本人が「捨てる」と決断しなければならないのである。またその決断をするためには衣料を収納場所から取り出して考えてみる必要がある。保管するスペースが圧迫されない限り、捨てるという決断は先延ばしにされてしまう。収納力にゆとりがあれば、捨てないままで買い足し続けることができ、その結果、多くの衣料がそのまま死蔵されているという状況が、かなりの日本の家庭で見られるのではないだろうか。

また、使わなくなった衣料を捨てるのではなく、他人に譲ったり、売ったりすることができることは、ただ捨てるよりは環境負荷を減らし、衣料の有効活用につながる面があるだろう。しかし、この方法を取ることで、本人は大して活用しなかった衣料を捨てる痛みと向き合わずに済んでしまうため、購入行動が改善されないという弊害もあるかも知れない。

【対策】

衣替えの季節など、新たな衣料を買い足したいと思ったタイミングでは、少なくとも新たなシーズン用の衣料を全て出し、今シーズンに着るか着ないのかを判断し、着ない衣料は手放すという判断を定期的にする重要性を、消費者に対して理解を促す。着用回数が少なかったり、年数の経っていない新たな衣料であれば譲ったり売ったりすることを考え、そうでない場合は資源リサイクルに回すようにする。

また活用せずに手放すことになった衣料は、なぜ活用できなかったのかを振り返り、できれば失敗点を「これまで買った衣料で失敗した点」リストとして一か所にまとめて記載しておくように促すことも一つの有効な手段であろう。それらの活用しなかった衣料の購入金額が総額何円になるかを考えてみることも、新たな購入を慎重にする効果があるかも知れない。

責任ある消費の実践

持続可能性に対する情報を得ること

食料に対しては残したり捨てたりすることが「もったいない」という意識が広く浸透しているのに対し、衣料に対してはその意識が社会で共有されていないことがうかがえた。いずれのケースでも保有している衣料が多

いことや、買ったもののほとんど着ていない衣料があることに対し、罪悪感を抱くという感じではないという印象を受けた。

衣料製造の背景にある途上国の過酷な労働環境や、先進国における衣料の過剰な消費と廃棄などの社会的問題に対し、いずれのケースにおいてもケーススタディ当初には認識がなかった。日本ではこのような問題をマスコミが報道することは稀であるため、多くの日本人が知らないのはむしろ当然のことと言える。どの対象者もこのような問題を知った途端に問題意識が高まり、自分なりに対応が必要だという意識が芽生えていた。社会的公正の問題や環境負荷に関する情報を多くの人に知ってもらう必要性も、どの対象者もが指摘する点であった。

【対策】

地域での講演会や講習会などの機会でも、多くの人に衣料製造に携わる人々の労働環境、衣料品製造に使われる大量の水や化学薬品と水質汚染、化学薬品による健康被害、そして大量の衣料の廃棄について知らせるようにする。これらの情報は消費者に積極的に知らされることはない。消費者が無知で、価格の安さだけにつられて気楽に衣料を買い続けることを止め、持続可能性を無視した衣料生産も留める力とすることが必要である。

2020年度より本格実施されている新学習指導要領でも、「持続可能な社会の創り手となる」ことは主要な教育目標の一つとして掲げられている。消費者教育の場で、大量消費が持続可能でないことを学ぶ機会を積極的に設けることが重要であろう。

衣料の選び方を学習する重要性

各ケースで100着以上の衣料を写真に収める過程で感じさせられたのは、一体、どれだけの衣料があれば個々人が満足するのかという点である。そこには、衣料のバリエーションを増やし、毎日違った装いをする必要があるという思い込みもあるように感じられた。さらに購入の契機が「ショッピングに出かけてお得なものを見つけたとき」「よく見ているファッションブログで勧められていた」など、購入すること自体が習慣となっていること

がうかがえるケースもあった。大量の衣料があれば様々なバリエーションもあるが、それぞれがよく似た衣料を重ねて持っているという印象を受けることも多かった。

冬服に比べて夏服が少ないケースでは、夏服では好みの色や素材が決まっていることが観察され、ある程度バリエーションを絞ったほうが衣料の組み合わせがしやすくなり、かえって手持ちの衣料を有効活用しやすくなると感じさせられた。またオーガナイズ以前には、「手持ちの衣料との組み合わせを考えていなかった」、「新たに購入するもの同士の組み合わせしか考えていなかった」という意見が聞かれ、手持ちのものを有効活用できる衣料選びを消費者が意識する重要性が浮かび上がった。またファストファッションの衣料は、耐久性に難があり何年も着続けることはできないのみならず、流行の少しの変化ですぐに古臭くなることも調査からうかがえた点である。消費者は有効活用できる衣料選びを、品質の観点からも学ぶ必要があるといえよう。

【対策】

衣料の大量消費が与える環境負荷を考えれば、自分がどれくらい衣料をもっていれば満足するのか？自分がどんな装をしたいのか？装いに興味がなければ、どんな自分になりたいか？などを俯瞰し、購入行動を本当の満足につなげてゆけるようにすることが重要である。その上で骨格診断やカラー診断といった個々人の特徴を大まかに把握する診断なども参考にしながら、自身の装い軸となる衣料を選べるようになるような学習機会が有効なのではないだろうか。

またケーススタディでは有効活用されなかったが、年間予算を総額だけでも決めておく、年間に購入する枚数を〇枚と限定するなど購入する限度を定めておくことで、本当に活用できる衣料を選択する意識を高めるような働きかけも重要だろう。活用頻度の高い衣料は多少高額でも質の良いものを選べるようにすることが購入した衣料を有効に活用してゆく上で必要であり、そのためには1年間、5年間といった長期的な購入計画が大切となることも伝えるべき点である。

今後の調査に向けた課題

今回の、ライフオーガナイズを実際に経験してもらうアクション・リサーチという手法は、わずか3ケースではあるものの消費行動の変化という点では大きな効果を持つことを感じさせられるものであった。一方、いっそうの衣料品ロス削減を進めてゆく上では、多くの課題も残されている。今回の調査から明らかになった課題は次のとおりである。

今回の手法では、専門家の指導の下に衣料を収納場所から全部出し、記録を行うというプロセスを経る過程で個人の生活が露わになるため、対象者を確保することが最も難しい点であった。また今回は物や空間の管理への意識が高く、整理されている家庭での調査であったが、ヒアリングを行った後にすべての衣料を取り出し、写真に収め、改善された収納方法でしまっていくという一連の手順に要する時間は延べ8-10人時間程度が必要であった。今回は課題発見型の質的調査であるため、1つのケースに人数や時間を割く対応を行ったが、これを多くの家庭で実施することは現実的ではない。

自分が保有する物の管理方法、購買行動の癖などを客観的に見つめ直す機会を、今後、マンツーマン指導以外の方法でどのように作り出すのか、私たちの社会や地球環境の持続可能性についての問題を心から理解するにはどのような働きかけが有効なのか、より多人数を対象とした調査により明らかにしてゆくことが必要である。ただ知識を得て終わりではなく、生活での実践につながり、持続可能な暮らしが持続するような働きかけの方法を明らかにするとともに、啓発資料や教材などを開発してゆくことが今後の大きな課題である。

【参考文献】

- 1 黒川衣代, 金貞均, 坂本有芳『徳島県の中高年を対象とした消費者教育のための探索的研究報告書』平成30年度とくしま政策研究センター委託調査研究報告書, 2019年

参考資料

【用語説明】

※ライフオーガナイズ

アメリカ発のお片付け術。思考の整理を重視し、一人一人それぞれに合う収納方法や、改善すべきポイントをヒアリングにより導き出す「コンサルティング支援型」片付けサービスのこと。「こうすべき」という方法論を押し付けることなく、本人の自発的な「気付き」を促し行動に変化をもたらすようサポートするのが特徴。

※ゴールデンゾーン

ここでは「背伸びせずに楽に手が届く範囲の高さにある収納スペース」のことを指す。このスペースに、一番よく使うものが適正な方法で、ゆとりを持って配置されていることが、片づけやすく家事を楽にするための大きな条件の一つとされている。

※1軍

ライフオーガナイズの基本的分類法として、※「全出し」したものを「四つに分ける」という方法があるが、そのうちの「一番よく使うモノ」「一番好きなモノ」にあたるカテゴリーのことをここでは総称して「1軍」と表現している。

※2軍

上記の「1軍」同様、四分類のうちの一つのカテゴリー。

「たまに使うこともある。」「好んで使いたいわけではないが、何らかの理由で捨てられないから努力して使うつもり」等に当てはまるモノを指す。自分以外の価値観で選ばれたもの(いただきもの)や、買ったものの失敗したと感じているものなどがここに当てはまりやすい。

四分類のカテゴリーの中では、そのほかに「他の場所に移動」「廃棄」等がある。

※全出し

ライフオーガナイズの基本的作業の一番初めのステップ。収納スペースの中のを、ひとつ残らず全て出し切ること。

※後入れ先出し

複数のストックをする場合、後から買ったモノを後ろに入れて、手前から使っていく仕組みのこと。

インタビュー用フェイスシート、同意書

インタビュー最初の挨拶など

- この度は、お忙しい中、インタビューへのご協力をありがとうございます。3時間ほどお時間をいただければと存じます。遅くとも正午 12 時に終了します。
- 私は、消費者教育をテーマに調査・研究を行っています。とても身近な日常生活をテーマに、色々な調査を行っています。
- 調査結果は学術論文や教育目的の報告書への掲載、または学会等での発表を予定しています。
- 恐れ入りますが、メモの補助としてインタビューを録音させていただければと存じます。
- インタビュー内容はプライバシーマークを保有する専門業者により反訳(文字起こし)し、匿名で分析および発表いたします。ご懸念なく率直なご意見をお聞かせいただければ幸いです。
- インタビューの実施、および録音することにご同意いただけましたら、以下にご署名いただけませんか。
- また恐れ入りますが、こちらの調査票にもご記入いただけますでしょうか。差し支えない部分だけで結構です。
- ありがとうございます。それでは、インタビューに入らせていただきます。(録音開始)

2020年8月

鳴門教育大学学校教育研究科准教授

坂本有芳

家庭の衣料品ロスに関する調査ご協力をお願い

本研究は令和2年度とくしま政策研究センター「委託調査研究」により実施しています。家庭の衣料品ロスの実態を明らかにすることを目的とし、調査の成果は報告書や学会等での発表を予定しております。

研究メンバーは以下のとおりです。

研究代表者:鳴門教育大学学校教育研究科 准教授 坂本有芳

研究協力者:とくしまお片付けラボ 今柴知子, 竹内真理, 藤原百合

研究補佐員:鳴門教育大学 吉井知子

研究への協力に関する同意確認

上記研究についてインタビュー調査に協力し、またインタビュー内容の録音、写真撮影にすることに同意します。

ご記名

1. ご家族について

① 現在、同居されているご家族の人数をお願いします(ご本人含む)(人)

② 同居されている方を全て○で囲んでください

1. あなたの配偶者 2. お子さん 3. あなたの父親 4. あなたの母親
5. 配偶者の父親 6. 配偶者の母親 7. その他()

③ ご本人の年齢をご記入ください

2020年8月1日現在の年齢 満()歳

④ お子さんの性別と年齢をご記入ください

- 第一子(男・女:満 歳) 第二子(男・女:満 歳)
第三子(男・女:満 歳) 第四子(男・女:満 歳)

2. ご自身のお仕事の時間など

1週間あたりの就業日数 週あたり()日

1日あたりの平均的な労働時間 約()時間

片道の通勤時間: 約()時間()分

3. ご自身や家族のお仕事の状況(○はいくつでも)

1. 帰宅が遅い 2. 出張が多い 3. 夜勤あり
4. 土日出勤あり 5. 休みが取れない 6. 単身赴任・別居
7. 不規則 8. その他()

4. あなたの現在のお住まいについてお聞きます。

a. 建物形式(1つに○)

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1. 一戸建て | 2. アパート・マンション |
| 3. その他() | |

b. 居住年数(1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 0～4年 | 2. 5～9年 | 3. 10～14年 |
| 4. 15～19年 | 5. 20～29年 | 6. 30年以上 |

c. 居住の予定(1つに○)

- | |
|--|
| 1. ずっと住み続ける |
| 2. 住み替える予定である |
| 3. 現在の住宅を建て替え・増改築する予定である |
| 4. 現在の住宅をリフォーム(改修工事)する予定である(工事予定箇所:) |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

インタビューシート

① 今日はクローゼットの管理や洋服の買い物について、日頃意識していることなどをお聞きできればと考えています。持っていらっしゃる洋服を大まかに分類するとすると、どんな感じになりますか。「お仕事用」「休日用」「フォーマル」「自宅でリラックスウェア」・・・

② ファッションには、どんなこだわりがありますか？「動きやすい」「きちんと見える」など、こういう服を買うようにしているというのが用途ごとにあれば。

③ 「これが自分の定番」というのは、どのような服装ですか？どのような服装をしたいですか？流行は気にしていますか。

④ この人を真似したいなど、理想・憧れの人はいますか？ファッションの憧れ、人物そのものの憧れ。

⑤ 日頃の生活では、何の時間を十分に取りたいと思っていますか？大切にしていることは？

⑥ 洋服を買うとしたら、どのようなタイミングが多いですか？季節の変わり目やセールなど、きっかけなどありますか？

⑦ 買う場所は決まっていますか？何を重視して買っていますか。

⑧ 予算は決めていますか？洋服を持つ量の目安はありますか？

⑨ エシカルファッションや服に関連する環境問題のお話などを聞いたことはありますか？

⑩ 持っているお洋服を、何かに書き出したり、アプリを使ったりしてみたことはありますか？これから写真を撮らせていただくのですが、どのような形でまとめると使いやすいでしょうか？

実際にクローゼットのところに移動してから質問。

⑪ お洋服のしまい方で、「もっとこうならないかな」と思っていることはどのようなことですか。

⑫ オーガナイザーの先生方からの自由質問

付録2: 調査後の情報提供内容

■参考記事

今回の研究目的は、「買ったけれどほとんど使わない衣料品 = 衣料品ロス」を減らすというものです。多くの方が、同じような状況にあります。そこで、以下の参考記事にお目通しいただければと存じます。

ファストファッション問題

<https://unitedpeople.jp/truecost/about>

ワーママの時短コーデ 「軸ボトムス」で毎日おしゃれ

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO43880290Y9A410C1000000/>

クローゼットをミニマルにしたら起こった、5つの素敵な変化

<https://minna-no-kurashi.jp/article/detail/2924>

服の買い過ぎ防止に効果がある「洋服ノート」の作り方

<https://minimalist-fudeko.com/my-little-fashion-notebook/>

1 1 月頃に（日程調整は改めてさせていただきます）、フォローアップ調査に伺わせていただいた際に、これらの中でどのような内容が参考になったか、お教えいただければと存じます。

■年間予算

ストレージに、家計全体の予算と衣料品の予算を考えるための Excel ファイルを入れています。よかったらこちらでもご利用いただき、予算を考えてみてください。（提出していただく必要は全くありません。）シートは 2 枚あります。自由に試してみてください、感想をお聞かせください。

年間予算シート(家計全体)

費目	費目に含まれる内容の例	あなたの予算			参考ケース(第一子が小学生までの世帯)		
		年額	月額	割合	月額	年額	割合
合計	月間・年間で使用できる金額の見積り	0	0	100%	350,000	4,200,000	100%
貯蓄	目安は収入の10%。 目的を考えて予算として確保しよう。			0 %	30,000	360,000	9%
食料	主食費(米、パン・麺類) 副食費(肉、魚、卵、乳製品) 調味料、菓子・飲み物 外食			0 %	78,000	936,000	22%
住居	家賃、家具 インテリア用品、寝具			0 %	18,000	216,000	5%
光熱・水道	電気、ガス、水道 (電池やガスボンベ、炭なども光熱費に)			0 %	21,000	252,000	6%
家具・家事用品	ゴミ袋、ラップ、スポンジ、布巾 キッチン用品、食器、キッチンツール			0 %	10,000	120,000	3%
被服及び履物	運動着、洋服、靴、下着 靴下、アクセサリー、鞆、ベルト・帽子、ストール			0 %	18,000	216,000	5%
保健医療	病院・薬代、シャンプー・石鹸類 洗剤、歯ブラシ、トイレトイレットペーパー 床屋、コンタクトレンズ関連、化粧品			0 %	10,000	120,000	3%
交通・通信	ガソリン、駐車場代 整備・自動車保険/ スマホ利用料、プロバイダ 固定電話、発送料、年賀状			0 %	45,000	540,000	13%
教育	授業料、習い事の月謝 教科書、文房具、書籍 検定料、奨学金返済			0 %	30,000	360,000	9%
教養娯楽	家族旅行、映画 DVDレンタル、 書籍、入場料			0 %	35,000	420,000	10%
その他 (交際費・特別費)	飲み会、贈り物、冠婚葬祭 予定外の予備費、用途不明金 タバコなど嗜好品			0 %	55,000	660,000	16%
					↑総務省家計調査の内容を参考に 入れています。		

年間予算シート(衣料品)

①これから1年間の方針							
例) 子ども達の衣類は・・・・・・・・。							
自分の洋服は〇〇に着的る服に困ることが多いので、冬物を中心に充実させる。							
②1年間の予算		42,500	円	年間予算も自動で計算されます			
③シーズン毎の予算							
		春・秋物		夏物		冬物	
	アイテム	具体的に	金額	具体的に	金額	具体的に	金額
子ども	ボトムス	ジーンズ	2,500				
		黒ハーフパンツ	3,000				
	トップス	パーカー	2,000				
		長袖襟付きシャツ	3,000				
	靴・鞆						
下着							
その他							
夫	ボトムス						
	トップス						
	靴・鞆						
	下着						
	その他						
自分	ボトムス	紺の長めスカート	15,000				
		カジュアルパンツ	7,000				
	トップス	タートルカットソー	5,000				
	靴・鞆						
	下着						
	その他	パジャマ	5,000				
	合計		42,500		0		0
合計は自動で計算されます							

保有衣料一覧:ケース A

【トップス1軍】



【トップス2軍】



【ボトムス1軍】



【ボトムス2軍】



【ワンピース・コート類1軍】



【ワンピース・コート類2軍】



保有衣料一覧: ケース B

【トップス1軍】



【トップス2軍】



【ボトムス1軍】



【ボトムス2軍】



【ワンピース・コート類1軍】



【ワンピース・コート類2軍】

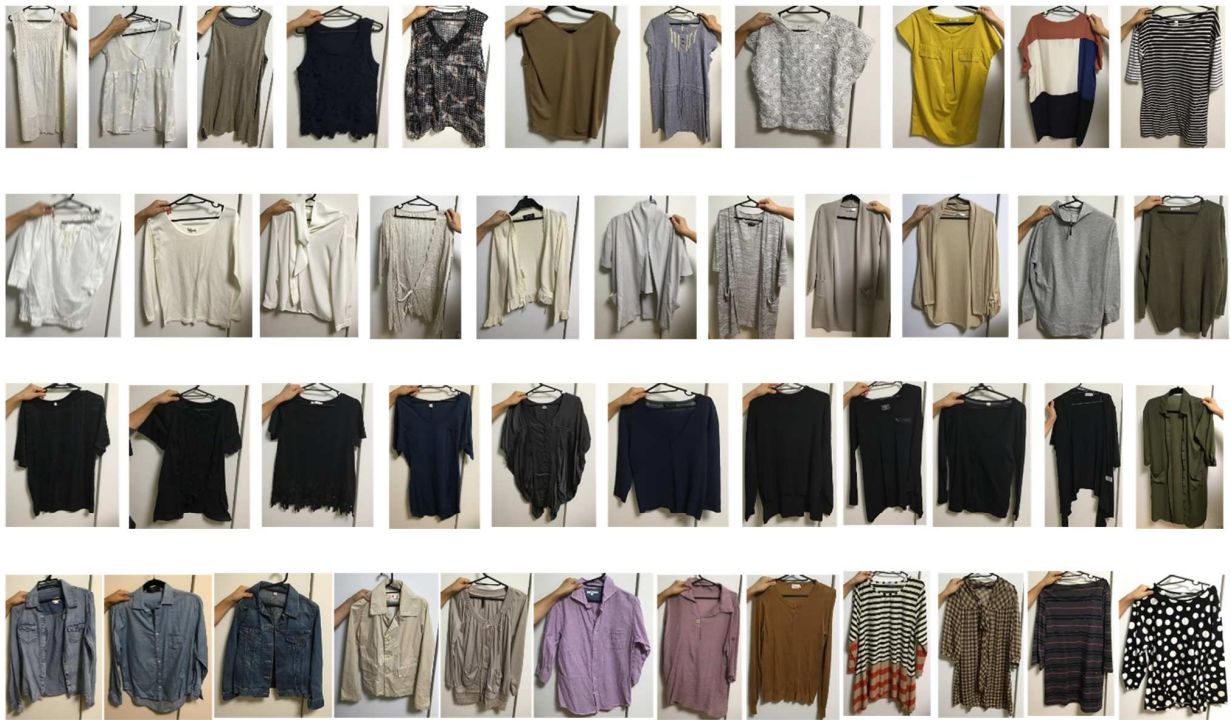


保有衣料一覧:ケースC

【トップス1軍】



【トップス2軍】



【ボトムス1軍】



【ボトムス2軍】



【ワンピース・コート類1軍】



【ワンピース・コート類2軍】

